

普及活動情勢報告（平成27年8月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

水稻の優良種子の供給に向けて



異品種や病害虫の有無の確認を行う

7月から8月にかけて、高知県の水稻奨励品種の優良種子の生産と供給を目的に、稲生、南国、東崎、香北町の採種組合の早期稲採種圃場において農業改良普及課と農業技術センターの種子審査員が圃場審査を行いました。1筆ごとに異品種の混入の有無や病害虫・雑草の発生状況等、圃場の管理状況について審査し、健全な種子を生産する圃場として適切かどうかを判断しました。また、生産者には、これから収穫に向けての圃場管理について指導しました。

農業改良普及課では、今後、普通期稲品種の圃場や生産物審査を実施し、28年度に向けた優良種子の生産・供給の取り組みを支援していきます。

JA土佐香美露地みかん部会 マルチ被覆栽培現地研修会開催支援



現地研修会の様子

8月12日、JA土佐香美山北果樹センター及び現地圃場で、露地みかん部会のマルチ被覆栽培の現地研修会が開催されました。

今年度の梅雨は降雨量も多く期間も長かったために、果実品質の低下が心配されましたが、マルチ被覆の効果により、糖度上昇に繋げることが出来ています。これから秋期にかけ灌水等、管理のポイントとなる時期に入ってきます。振興センターではJAと共に果実分析を実施しており、参加者の圃場の状態による灌水のタイミングを指導・確認しました。

振興センターでは今後もJAと連携し、マルチ被覆栽培の技術の向上と、高品質果実を柱にした「山北みかん」の有利販売が出来るよう産地を支援していきます。

イチゴも炭酸ガス施用技術が始動！ イチゴ高設栽培研究会が事業に名乗り



事業組織を立ち上げたイチゴ高設栽培研究会

8月4日、南国市を中心としたメンバーで構成するイチゴ高設栽培研究会4人は、環境制御技術導入加速化事業の補助対象組織となって、炭酸ガス発生機を導入することになりました。農業改良普及課ではこれまでに事業内容の説明や炭酸ガス等環境制御技術に関する情報を提供しました。県内にはイチゴの炭酸ガス施用事例が少ないため、4人は県外からも情報を収集して技術の確立を図っていくとのことです。

農業改良普及課では、同研究会の円滑な事業の推進と技術確立を支援し、全員の増収と品質アップを目指します。

ナス・シシトウの炭酸ガス実証結果を検証！ ～炭酸ガス研究会 8月の勉強会から～



議論がヒートアップした炭酸ガス研究会

8月7日、炭酸ガス研究会は香南市で県の実施したナス、シシトウの炭酸ガス実証の成果検討会を開催し、生産者・関係機関から31人（うち生産者11人）が参加しました。安芸と須崎の農業振興センター職員からそれぞれナス、シシトウの成果の説明後に、増収の解析や制限要因（律速）等について検討しました。生産者から「厳寒期のナスは夜温が低い」、「ボケ果対策は」、「着果数の山谷を減らし、炭酸ガス施用で回転を早くすることが大事」、「増収を目指したら秀品率もあがる」、等白熱した議論が展開されました。

農業改良普及課は、同研究会活動を引き続き支援しながら、増収・品質向上のための効果的な炭酸ガス施用技術の普及を目指します。

6次産業化を進めよう「加工品のレベルアップ講習会」



求評会で講師からアドバイスを受ける参加者

8月18日、中央東農業振興センターにおいて、「加工品のレベルアップ講習会」を開催しました。農業改良普及課が主催し、加工グループや関係機関含め32名が参加しました。6次産業化による加工品売上向上のため、「新商品開発に関する講演」と、「加工品の味やパッケージ等に関してアドバイスを求める求評会」を企画、運営しました。参加者からは「学校給食に使われていることをPOPにするアドバイスが参考になった」「まず試食をしてもらうことが大切だと思った」など売り方を改善する声が複数ありました。

農業改良普及課は、今後も視察研修会などを開催し加工品の商品化など6次産業化に取り組むグループを支援していきます。

ニラ調整作業機の共同利用の事例調査



共同利用について聞き取り

現在、管内ではニラの調整作業員不足が課題となっています。そこで8月17日、課題解決に携わるJA土佐香美と農業改良普及課の担当者が、JAコスモスにおいて、調整作業機を共同利用している農家から、調整作業機械の稼働状況などを聞き取りました。5年以内の新規就農者2戸が1台の調整作業機を共同利用しており、「収穫回転が上がった。春は収穫が間に合わず、刈り捨てをしていたが、刈り捨てを無くすことができた。」「調整作業機で荒そぐりをするため、調整能力が向上した。」といった声が聞かれました。

今後、農業改良普及課は、今回の事例を含めた優良事例を情報提供し、機械化を推進していきます。

物部ユズ夏季管理講習会



講習会の様子

7月31日、JA土佐香美物部支所において、ユズの夏季管理講習会を開催し、37名が参加しました。高温期には生産者の管理作業が不十分となる傾向が見られることから、「夏季作業の重要性を認識しましょう」をテーマに講習しました。

また、将来の機械化を視野に入れたほ場作りの重要性についても説明しました。参加者からは、「幼木の樹形作りや成木の夏秋枝の切除について現地で講習して欲しい」、「樹形改造や摘果によって収量は減少しないか」等の意見が出されました。

今後、農業改良普及課では、生産者の高齢化や減少に対応するよう、作業機械が入れるほ場作りについて啓発してゆきます。

ニラの品質向上にむけて



今後の栽培管理を聞く参加者

8月3日、JA長岡でニラ部会の定例会が開催され、ニラ農家やJA営農指導員、園芸連が参加しました。関係機関からは、品質低下や異物混入への注意喚起がされ、品質向上に向け目慣らし会や現地検討会の開催について提案がありました。また、次園芸年度の出荷量の見込みや出荷時の包装形態について検討されました。農業改良普及課からは、肥培管理や病虫害の発生状況について報告するとともに、今後、注意が必要な病害について情報を提供しました。また、腐敗などの品質低下が発生しやすい時期のため、収穫から出荷までの温度管理や作業を再確認するよう注意を促しました。生産者は、今後もよりよいニラを出荷できるように認識を新たにしていました。

農業改良普及課は、今後もニラの腐敗や異物混入等、品質向上対策の推進にむけて支援していきます。

第1回南国市集落営農塾を開催



講演を聞く参加者

7月23日、第1回南国市集落営農塾を開催し、農家や集落代表者、関係機関等60名が参加しました。南国市と農業改良普及課から、南国市の農業の現状、集落営農の推進状況を説明しました。また、広島県の「農事組合法人いかだづ」から講師を招き、「大規模農家が参加する集落営農組織と広域活動組織」について講演いただきました。南国市と背景や地域性が共通する部分も多く、参加者からは、「自分の集落でも取り組みを進めていきたい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も集落営農の組織化を支援していきます。

南海トラフ地震に備えた農業用燃料タンク対策



流出防止タンクと防油堤

7月29日、JA土佐香美が、営農総合センターにおいて、燃料タンク対策補助事業希望農家を対象に、国や県の補助事業を活用する場合の個人負担や申請に向けてのスケジュールについて説明会を開催し、農家12名と燃料供給業者1社が参加しました。農業改良普及課からは、対策の考え方や今後の推進について説明しました。農家からは「一部の関心のある農家だけが取り組むのではなく、皆がやる取り組みにしてもらいたい」「流出防止タンクの機能や値段はどうか」「防油堤はどのようなものが適合するのか」など意見や質問が多くいただきました。

農業改良普及課は、今後も補助事業導入を支援し、防災プログラムやハザードマップ作製に向けて関係機関と取り組んでいきます。

ユズの団地化で集落を維持する仕組みづくりを



住民と柚子生産部会との話し合い

7月27日、物部町楮佐古集会所において地元住民9名、柚子生産部会5名、関係機関7名が参加し、集落の農地を維持するために、JA土佐香美ユズ部会として協力したい旨を伝えました。農業改良普及課では地域の代表者から状況を聞き取り、部会の意向を取りまとめて会の開催に繋げ、会ではその経過を説明しました。住民からは「将来に渡って責任を持って農地を管理して欲しい」「境界が解るような取り組みとなるのか」「ユズの栽培を止める時には現状復帰されるのか」といった意見がいただきました。

今後、地区の代表者と一緒に個別訪問し、住民の意向を確認することになりました。